

## 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果についてのお知らせ

## 全国学力・学習状況調査の概要

## 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2. 調査内容・実施時期

調査対象学年	第6学年
調査の内容	○教科に関する調査：主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題 【国A、国B、算A、算B】 ○生活習慣や学校環境に関する質問紙調査：児童に対する調査、学校に対する調査
実施時期	平成29年4月18日（火）

## 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果

## 1. 全国学力・学習状況調査の結果

## (1) 各教科区分の平均正答率（全国・福岡県との比較）

国語A、B、算数Bにおいて全国平均正答率を上回っています。また、算数Aにおいては、やや上回っています。国語A、B、算数A、B全てにおいて、昨年度と比べるととても改善され、学力の向上がみられます。また、国語B、算数Bは「活用」に関する問題であり、国語A、算数Aの「基礎・基本」に関する問題に比べて、全国、県と比較すると、平均正答率が高いです。

このことから、基礎・基本の学力に加えて、活用力の学力定着がされつつあります。今後も一層の基礎・基本と活用力両方の学力を維持し、高めていく必要があります。

## (2) 児童質問紙の結果（全国・福岡県との比較）

国語基礎、活用、算数活用において福岡県平均正答率を上回っています。また、算数基礎については、やや上回っています。昨年度と比べると全てにおいて、大幅な改善傾向にあります。国語問題は、算数問題に比べて、平均正答率が高いです。

このことから、特に国語の基礎・基本、活用の学力の定着がされつつあります。しかし、算数については、学校全体で躓きのある単元や領域を分析し、1年から5年までの授業改善をしながら、学力を定着させる必要があります。

## 調査結果から見える課題克服に向けての学力向上の方策

### (学力面に関して)

- 考えを、根拠を基に自分なりの言葉でノートにたくさん書いたり、友達の考えと比べて説明したりする場面をどの教科でも授業の中で行います。
- 複数の資料から、気付いたことを話し合ったり、間違いを説明し、正したりするような授業を行い、子どもの「考える力」を伸ばします。
- 授業の最後に振り返る時間を設定し、わかったことを自分でまとめて書くことができるようにします。
- 活用力を高める問題や文章に書き慣れるための短作文にどの学年でも取り組みます。
- 算数では、指導方法工夫改善教員と一緒に担任が連携を強化し、躓きの見られる問題を復習したり、単元の最後に活用問題に挑戦させたりし、算数のきめ細やかな指導に当たります。
- 「南っ子チャレンジ」や「南っ子タイム（朝の活動）」「チャレンジタイム・ウィーク（赤ペン先生）」「ぐんぐん教室（昼休み月・水・金）」で、補充学習を全学年で継続して行い、どの学年の子どもにも、基礎・基本的な学習の定着を図ります。※もちろん、これまで行っている「学習規律の徹底」「持ち物の徹底」などは継続していきます。

### (生活面に関して)

- 子どもたちのよさやがんばりをしっかりと承認し、自尊感情や自己有用感をさらに高めます。
- 学級活動や道徳の時間の学習を通して、よりよい人間関係づくりや規範意識を高めます。

### (家庭学習に関して)

- 定着を図る「復習」だけでなく、全校で「予習」を宿題に出す取組を重点的に行い、振り返ったり見直しをもったりする学習の習慣をつけます。
- 保護者に家庭学習の関心をさらに高めてもらうために、宿題サインの取組と家庭学習頑張り週間を継続していきます。
- 「考える力」を伸ばすために、全学年で活用力の問題を週末課題に出すなど課題の内容を充実させます。特に4～6年生は活用力を高めるための国語・算数の応用問題を月に2回出します。

### (職員に対して)

- 学力向上に関することや生徒指導に関する職員研修を密に行い、全職員で学力向上の改善の取組を実践します。
- 全学年で学力を向上させるという職員の意識を高めます。

学力調査の結果は全ての学力を示すものではなく「学力の特定の一部」です。

この結果を活かしながら、本校の重点目標『「わかった」「できた」を実感し、よりよく関わ  
り合う南っ子の育成』に向かって取り組んでいきます。